

第2回検討委員会に係る意見等（書面意見）

	該当するテーマ	御意見等
	記載例 【テーマ1】「生物多様性の考え方、説明について」の、生態系サービスだけにとどまらない、生物多様性の本来の大切さ～について	‘生物多様性の本来の大切さ’を計画書の中で示すのは難しいが、〇〇県の地域戦略では、比較的図や文章でうまく説明できていると思う。特に〇ページの説明は、イラストや写真をうまく配置して読者の興味を引くような工夫がなされている。
林委員	【テーマ1】「生物多様性」の考え方、説明について	他県他市町の web サイトを見ても生物多様性の説明が繰り返され、今更同じことを繰り返すことで、最後まで見ようとする気がそがれてしまう印象があります。多くの委員がご指摘されていたように、神奈川県 <small>の</small> 独自性を多く取り入れ、身近な問題として興味を引く姿勢が大切だと思います。たとえばあきる野市 https://www.city.akiruno.tokyo.jp/0000005507.html は見やすい絵地図から導入され、市民にはイメージしやすいと思います。
林委員	【テーマ1】生物多様性の本来の大切さを理解していただくためには、県民の方々に実感していただく仕掛けが重要であるが、経済的にメリットを享受するという以外に、純粋に生き物が大事だなんて思っただけのような事例というのはなかなか、今のところ思い浮かびません。	行政が印刷物あるいは web で示すときには、生態系サービス、ワンヘルス、SDGs など、人間が地球上で健全に生きていくためにどういうふるまいをしていくべきかということを書くことしかできないと思います。ただし、生物多様性や生態系の大切さを理解しようとする本来の原動力というのは、本当にクジラの声を海で聞いた経験とか、深山で巨木に囲まれた体験とか、経験でしか得られないことだと思います。それを行政が理解し、体験教育という形で粛々と進めていけることが大事だと思います。ただ、後者については、文言で書くことはチープになるので無理でしょう。
皆川委員	【テーマ1】「生物多様性の考え方、説明について」の、生物多様性の本来の大切さを理解していただくためには、県民の方々に実感していただく仕掛けが重要であること～について	「ワンヘルス」の考え方については、WWF ジャパンが中心に宣言した“ワンヘルス共同宣言”が参考になると思います。（日本の多くの自然保護団体から支持されています） https://www.wwf.or.jp/activities/statement/4540.html また、“「ワンヘルス」～次のパンデミックを防ぐカギ”では、新型コロナウイルス感染症が発生した背景について、ワンヘルスの観点からうまく説明されています。その中で、ワンヘルスを説明するイラストも理解しやすいと思います。 https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/4546.html

勝呂委員	【テーマ1】「生物多様性の考え方、説明について」の、生態系サービスだけにとどまらない、生物多様性の本来の大切さ～について	生物多様性の重要性について、私はいつも「自然そのものが生物多様性である」という説明をしています。要は生物がジグソーパズルのパーツのようにきっちり合わさって、バランスがとれた状態が本来の自然であり、健全な状態であることを強調します。そのパーツ、例えば絶滅危惧種のホトケドジョウが抜けてしまうことで、他の生物もガタガタと崩れていく。つまりどんな種が役に立つとか、生態系サービスを唱える前に本来あるべき自然の中で、人間も進化してきたことを強調し、人間にとっても、生物多様性が高く安定した自然があることが住みやすいことを強調しましょう。
勝呂委員	【テーマ1】生物多様性の考え方、説明について」の、県民の方々に実感していただく仕掛けが重要であること	様々なコラムを提示することは賛成です。具体的な自然度の高いエリアについては神奈川自然保護協会が取りまとめたホットスポットを事例に示すと良いのでは。それから具体的な種多様性の重要性をわかりやすく示すためには、各委員が生物多様性について講演する時に使用する、それぞれの分野のパワポを拝借するとよいのでは？私もタナゴの種間関係やヤマメとカマドウマのポンチ絵など、いくつかパターンを持っています。
林委員	【テーマ2】計画の進捗を測る指標と目標設定について	会議中にも少しふれましたが、すでに挙げられている指標は分かりやすいですが、それだけだと短絡的で意義が理解しにくいです。やはり指標と目標は違うわけなので、そこをわかりやすく記載すべきだと思います。表に指標を羅列したならば、その横に「最終的な目標」としていくつか長期目標となる方向性を書くべきではないでしょうか？たとえば、「アライグマのCPUE 低下」が指標ならば、「在来固有種の生息地復元」などが長期的な目標として記されるべきではないかと思います。あと個人的希望ですが、外来生物では分布拡大が問題視されている「クリハラリスの生息域を相模川以西に及ばないようにする」という目標も掲げていただきたいと思います。このように指標や目標の選別について、議論は継続し、更新し続けたいという希望があります。
勝呂委員	【テーマ2】計画の進捗を図る指標と目標設定について	具体的な数値目標を示すことは分野によっては難しくはないです。淡水魚では内水面試験場でやっているように、指標種として絶滅危惧種であるミヤコタナゴやメダカを復元することで、繁殖状況などを示すことができるし、復元地の在来の生物種数やバイオマスの変動を把握すればよいのではないのでしょうか。どのような単位、系については、まず簡単な小規模なもの、

		例えば公園の池やビオトープなどから入り、次第に東丹沢の相模川流域とか、生田緑地など、範囲を広げていってはどうか。
勝呂委員	【テーマ2】都市、近郊とそれ以外で目標などが異なる	それぞれの地域、場所に応じた目標設定を行う必要があります。もちろん、すべての地域で実施することは不可能なので、異なる特性のエリアを抽出・選定するのが良いのでは。
林委員	【テーマ3】 生物多様性情報ネットワークの構築について	県内の様々な生物多様性に関わる課題に対して、専門家が関与することは重要だろうと思います。そのためにこの委員会がうまく活用されると良いのではないかと感じました。我々は研究者同士のネットワークもあり、それぞれの現場に近い適切な研究者をご紹介することもできます。また、各地域の活動を俯瞰し、似たような問題があればネットワークを作ることできますし、全県視点でないとできない外来生物問題などは統括して進めることもできます。研究者がメールやweb会議で気楽に意見交換できる時代なのですから、行政はもっと気楽に協力を仰ぐべきだろうと思います。ただ、行政のなかで、生物多様性などの環境問題への予算確保が後回しにされがちなのは、先進諸外国に比べて日本が遅れている大きな問題だろうと思います。すぐには難しいことは分かりますが、引き続き環境行政への予算確保を要求し続けていただきたいと思います。
勝呂委員	【テーマ3】生物多様性情報ネットワークの構築	ユニット的に対応することは良いアイデアだと思います。やはり要となるには、自然の特徴のある地域がよいのでは？実際に各分野の研究者や専門家が連携しているケースは、地域が注意になっています、例えば公園とか水田地帯とか… また、ネットワークを構築するのに共通のHPを作成する方法もあります。自然の情報を共有して収入を得るような仕組みを活用する方法があり、一部に広告を入れて、その利益の一部が調査研究者に還付されるようなHPもあります。

勝 呂 委 員	【テーマ4】その他	<p>当計画の策定時にお願いしたのですが、戦略に事業がぶら下がっていないことが大きな問題と考えています。財政状況とか、コロナ禍だとか、自然環境系は予算がとれない等、よく理解しています。しかし、このままで良いと思っている人は事務局も含めて一人もいないのでは。</p> <p>時間はかかってもパイロット的な事業を立ち上げてはどうでしょうか。例えば、相模川の河口域とか、生田緑地など、狭い範囲でもよいので、まずは生物多様性をパイロット的に保全・復元する事業を検討できませんか。多様性保全・復元の調査や研究は、まじめにやると、専門家もたくさん必要で、遺伝子分析などのお金もかかります。</p>
------------------	-----------	--